

5月の連休明け、東京より今井和子先生を講師に迎え、3日間に渡って、職員特別研修を行いました。実際にわが園の環境や保育の様子を見て頂いた上での研修でしたので、とても実のある贅沢な研修となりました。

たくさんのお話を学びましたが、そのなかでも、ぜひおうちの方々にも知っておいて頂きたいなあと思うことをご紹介します。

\*\*\*\*\*

### 『葛藤をくぐりぬけ自律の芽生えが育つ』（今井和子）

（ぜんほきょうNo.179 2008年3月号より）

#### ◆自立と甘えの間を揺れ動く2歳児

2歳を過ぎると、ごはんも一人で食べられる、自分が行きたいと思った所には走っていける、『もう大きくなったんだ』『何だって一人でやれる』と自立に向かって歩みだしたはずなのに、おとなからは「手を洗ってらっしゃい」「外に出たら手をつないで歩かなければ危ないの」などと2歳児の行動を規制するような指示ばかり出されるようになります。せっかく手を洗おうとしていたのに、おとなから一方的に命令されると「もう洗った」などと抵抗したいがための嘘をついたり、「手、洗わなくてもいいの」などとあまのじゃくになったりします。おとなの指示が強ければ強いほど『もう大きくなったんだ。だからぼくのつもりを尊重して…』という自己主張や反発が強くなります。反面、頼りにしているおとなの姿が見えなくなると慌てて後追いをし、「だっこだっこ」と求めたり、添い寝をしないと寝なくなったなど1歳のとき以上に甘えん坊になることもあります。自立はしたい、でもそうなること頼りにしている大好きな人との距離が離れていくという不安を感じるのでしょう。無意識にはまだまだ愛されたい思いも強く「できない、やって」と依存し、お兄ちゃんになったり赤ちゃんになったり、おとなからはまるでわけが分からなくなる2歳さんです。

#### ◆葛藤し、気持ちの切り替えができるようになる

自分の要求やつもりがはっきりしてくるからこそ2歳児は、他人の意図とぶつかるようになります。スーパーに買い物に行ったとき、自分の大好きなものを見つけて「買って、買って」と親にせがんでいる子どもの姿をよく見ます。「おやつは家に帰るとちゃんとあるのよ。だから今日は買いません」と拒まれると子どもはパニックになってしまい怒ったり、泣いたりします。この混乱状態を「葛藤」とよんでいます。自律(自分の思いが通らなくてもそこでどうすればよいのか？ 考え、判断し、我慢する力)が育つ過程には、2歳児のようにすぐには自己コントロールができずパニックになってしまい泣いたり怒ったり、自分と向き合う時期が必要なのだと思います。激しい感情を吐露することによって、やがて気持ちにある程度のしめくくりができ、どうすればよいのか？ という気付きが生まれるようになるからです。ところがそれを待てないおとなが『いつまでも駄々をこねられるのは困るから…』と「じゃあ今日だけよ」とつい子どもの言うなりになってしまったり、「言うこと聞けない子は、もう置いていきます」と子どもと同じように怒りがおさまらなくなってしまうのでは、残念ながら子どもの自律は育ちません。子どもが思い通りにならない事態にぶつかり、混乱を起こしているときこそ、その感情に振り回されずに「買ってもらえなくて悔しいね」とまずは子どもの気持ちを受け止め、「泣きたいときは泣きなさい」「怒ることは大事なことで、自分の気持ちを素直に表しているのね」などと余裕を持って子どもと向き合ってほしいです。自分のありのままの感情を十分受け止めてもらい、ともに気持ちを感じとってもらった子どもは、今後さまざまな葛藤に出会ったとしても、自分を支えてくれるおとなの存在を心のバネに、乗り越えていけるようになるのではないのでしょうか。それを身につけることができなかった孤独な子どもたちの怒りや悲しみが大きくなって噴き出し、アしたりキしたりするようになるのでしょう。

幼児前期は、他者に気おくれなく自分を主張できる力、それを(何でも受け入れられるのでなく)受け止めてもらい、さらにおとなの考えを知り、ともに方向性を見出していく関わりが育まれることを願ってやみません。

\*\*\*\*\*

ダダコネや泣いたり、騒いだりする子を「困った子」として見るのではなく、「この子は今、何か困っているんだな」「何を困っているのかな」と大人が子どもの見方を変えることで、その子の心に寄り添った言葉が生まれてきます。子どもの心の発達を丁寧に支えていってあげたいものです。